

〈導入レポート〉

5S 活動で培った改善力を活かし、 中小製造業で初の ISO 22301 を取得

桐栄工業(株)

神奈川県のはほぼ中央に位置する伊勢原市。小田急電鉄伊勢原駅から西へ約 3 km 先に位置する内陸伊勢原工業団地の中に精密プレス加工の桐栄工業がある。自動車や半導体部品を製造して約 60 年。一見したところは従業員 40 数人のごく普通の中小企業だ。しかし、1 月に他の製造業に先駆けて事業継続マネジメント (BCMS) の認証を取得。危機管理対策は大企業の先をゆく。取得までに要した期間は約半年。短期間で実現できた背景には、同社が徹底して取り組んできた 5S 活動(整理、整頓、清掃、清潔、しつけ)がある。

業界のモデル企業に指定

2013 年 7 月 31 日。桐栄工業の会議室を経済産業省やコンサルティング会社、日本金属プレス工業協会の職員が訪れた。目的は BCMS の国際規格「ISO 22301」取得に向けたキックオフミーティング。日本金属プレス工業協会は会員企業への BCMS 導入促進に向けて、中小事業者でも短期間で容易に取得できる BCMS 策定ツールの開発を進めていた。そのモデル企業として、今回、桐

栄工業が選出されていた。

桐栄工業は 1956 年に創業し、精密電子部品や自動車、半導体、化学機器部品、医療機器といったさまざまな業界の部品を生産している。2010 年度には雇用や受発注、技術開発を通じて地域経済に貢献する県内中小製造業の模範工場として、神奈川県から「かながわ中小企業モデル工場」に指定された(写真 1)。

BCMS は自然災害や人的災害といった突発的な事態で事業が中断したときを想定して、従業員 1 人ひとりの教育訓練や内部監査、改善といった PDCA (計画・実行・評価・改善) マネジメントを実施し、事業継続計画 (BCP) を効果的に運用・管理する仕組みだ。日本列島は北米プレート、ユーラシアプレート、太平洋プレート、フィリピン海プレートの 4 つのプレート上にあり、地震大国として知られている。直近では 2007 年の新潟県中越沖地震、2011 年の東日本大震災が記憶に新しい。近い将来には南海トラフ地震、東南海地震、首都直下型地震の発生も懸念されている。

こうした大きな災害が発生すると、たびたびサプライチェーンの崩壊などが発生し、日本の産業界、そして社会全体が深刻な影響を受けてきた。中越沖地震では自動車部品メーカー、リケンの柏崎工場(新潟県柏崎市)が被災し、トヨタ自動車や日産自動車といった自動車メーカーが相次いで生産停止に追い込まれた。東日本大震災ではルネサスエレクトロニクスのマイコン工場が被災したため、同様に自動車の生産に影響が出た。これらの教訓から自動車メーカーや一部の部品メーカー、



写真 1 神奈川のモデル工場である桐栄工業本社工場